



日本生涯スポーツ学会
Japanese Society of Lifelong Sports
News Letter

2018 MAY

【目次】

- 会長挨拶
- 副会長就任にあたって
- 理事長 2 年目を迎えて
- 各委員会委員長あいさつ
- 新役員体制紹介
- 事務局
- 日本生涯スポーツ学会第 19 回大会の報告
- 日本生涯スポーツ学会第 19 回大会【学生訪問記】
- 日本生涯スポーツ学会第 20 回大会のご案内
- 関連学会等情報
- 新入会員

【会長挨拶】

『日本生涯スポーツ学会 20 周年を迎えて』

日本生涯スポーツ学会 会長 山口 泰雄



1999 年に設立された日本生涯スポーツ学会は、今年度、20 周年を迎えます。「10 年ひと昔」と言いますが、20 周年を迎えた本学会は、人間でいえば成人を迎えたこととなります(18 歳成人の民法改正は 4 年後になりそうです)。今後の成人期の発展に向けて、一言、ご挨拶申し上げます。

学会のミッションは3つあり、①研究の量的・質的向上、②研究者の育成、③研究成果の社会・地域貢献です。研究の量的・質的向上は、学会大会における発表数と発表内容に関わっています。また、学会誌における投稿数と採択数、および内容分析が必要です。これは、過去の学会大会における検証が求められるところで、学会大会のテーマにするか、プロジェクト研究にしてもいいかもしれません。

研究者の育成は、本来、大学・大学院のミッションですが、学会としても取り組む価値があると考えます。というのは、近年、18 歳人口の減少に伴う大学教員のジョブマーケットの縮小から、大学院へ進学希望の学生数の減少傾向がみられるからです。院生の減少は、若手研究者の減少につながり、学会としても存亡の危機につながっていきます。このような問題意識から、研究企画委員会のリーダーシップにより、第 18 回大会から『若手研究発表賞』がスタートしました。これまで、東京都江東区シビックセンター、龍谷大学瀬田キャンパスにおいて、プレゼンが行われましたが、独特の緊張感の中で意欲的な研究発表が行われ、学会大会のメインプログラムのひとつになったかと思えます。

今年、沖縄県名護市の名桜大学において開催される 20 周年記念大会においては、新たに『ポスター発表賞 学部生部門・大学院生部門』がスタートします。この賞のねらいは、学部ゼミと院ゼミの活性化とその波及効果にあります。日本生涯スポーツ学会の特徴は、設立当初から学部ゼミ生が参加しており、野川春夫元会長のリーダーシップによるものです。最近では、若手教員が新たなゼミを開設したことにより、フレッシュな学部生や院生参加者が増加し、学会大会の活性化につながっています。また、学部ゼミ生や院ゼミ生が学会大会において受賞したり、ゼミを対象にしたいいくつかの企画コンペで受賞すると、当該大学のホームページで紹介されたり、大学ニュースで取り上げられたり、その波及効果が大きくなっています。

第 20 回記念大会における『ポスター発表賞』への多くのエントリーを期待します。指導教員にとって、学部生に研究の基礎を教え、プレゼンまで持っていくためには大変なエネルギーを要します。しかし、その結果、学生・院生と教員との距離が縮まり、教育効果は大きくなることは間違いありません。沖縄県名護市の名桜大学において、皆さんと再会し、意欲的なプレゼンを聞くことを楽しみにしたいと思います。

『副会長就任にあたって』

田畑 泉（立命館大学）



日本生涯スポーツ学会の副会長を拝命いたしました立命館大学の田畑泉です。健康づくりのための身体活動・運動・スポーツという観点から研究を行っており、厚生労働省“健康づくりのための運動基準 2007”、“健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド 2007)”の策定にかかわったことより、国の政策・施策という観点から本学会に情報提供をしてきました。

2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピックは、国民の中に、スポーツ活動や文化を浸透させる最後のチャンスと思っています。この大切な時期に本学会の役職を拝命したことは、大きな責任があると感じています。本学会が発展し、社会に対して大きな貢献ができるよう微力ではありますが、努力したいと思っています。よろしくお祈りします。

『理事長 2 年目を迎えて』

萩 裕美子（東海大学）



昨年度、理事長に就任し、学会事務局も一新して新たな体制でのスタートとなりました。にもかかわらず、学会大会を欠席せざるを得ない状況になり、多くの皆様にご心配をおかけしました。昨年の 1 年間は事務局長の松本先生に助けられながら理事長としての仕事をさせていただきました。

さて、生涯スポーツ研究会から生涯スポーツ学会となって 20 年、学会とともに成長された皆様が、今や日本のスポーツ界の中核を担って活躍されていることに、大変希望を持っています。生涯スポーツはいつか「生涯」という冠が消えるときがくるかもしれない。と言われました。しかし、未だに一定の地位を確保しています。国民向けのスポーツ啓発にはまだまだその役割があるように思います。池田勝先生が重病の体を押して鹿屋で基調講演をされたときの、Sport for All から Sport for Everyone へのメッセージは、今もなお本学会の指針であり、目指すべき方向であると確信しております。スポーツ基本法では、すべての人がスポーツをする権利があると謳われております。そのために環境を整え、施策を実現していくことが必要です。我々は研究というフィールドでエビデンスを蓄積し、今後もスポーツ界に革新を起こしていこうではありませんか。

『編集委員会より』

長ヶ原 誠（神戸大学）



2016-2017 年度に発行した生涯スポーツ学研究 第 13 巻 1・2 号と、第 14 巻 1・2 号では、合計して総説 1 編、原著論文 9 編、研究資料 8 編、実践報告 1 編、短報 2 編が掲載されました。この間、富山浩三先生（大阪体育大学）、久保田晃生先生（東海大学）、荒尾 孝先生（早稲田大学）、山田理恵先生（鹿屋体育大学）、伊藤克広先生（兵庫県立大学）、竹内 亮先生（大阪体育大学）の編集委員会メンバーが各投稿論文をご担当頂き、延べ 46 名の査読者の方々により貴重なコメントとご指導を頂戴しました。この場を借りてご支援に厚くお礼を申し上げます。また、各 2 号には学会報告として基調講演やシンポジウム、さらには計 78 演題の口頭発表とポスター発表の要旨が掲載されましたが、各演者の皆様と共に、組織委員長として学会報告の取り纏めをして頂きました工藤康宏先生（順天堂大学）と久保和之先生（龍谷大学）にもお礼を申し上げます。この 2 年で投稿手続きや規程、編集手続き等で多くのご指摘を頂きながら編集委員会にて改善を行いましたが、これをベースにしてさらなるレベルアップを目指し、本誌の益々の発展に次期委員会でも精進して参ります。内外の関連する学会誌の中でも存在感を益々発揮しながら発展していくよう、皆様からは忌憚のないご意見を賜りながら、さらに積極的な投稿や査読へのご協力を頂きますよう引き続きよろしくお願い致します。

『2 期目の研究企画委員会委員長就任にあたって』

石澤 伸弘（北海道教育大学）



北海道教育大学札幌校の石澤です。この度、2期目の研究企画委員長を仰せつかりました。よろしくお願い申し上げます。前回の任期中は、皆さま方のご協力もあり、「若手研究発表賞」をスタートさせることができました。サポートいただいた先生方や、審査員の任をお引き受けいただきました先生方には、ただただお礼を申し上げるに尽きます。本当にありがとうございました。現在、当委員会におきましては、学会大会時の「ポスター発表賞」のスタートに向けての準備を開始しております。今年度の記念すべき第 20 回大会からの実施を目指しておりますので、学会員の皆さまにおかれましては更なるご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

教育現場におきましては、学習指導要領が改訂され、体育の部門では新たに「スポーツライフを実現する」との文言が付け加えられました。そのような中で、当学会が果たす役割も更に拡大していくことが予想されます。これを契機に、学会員の皆さま方と共に当学会を更に盛り上げて行きたいと考えております。よろしくお願い致します！

『広報委員会より』

工藤 保子（大東文化大学）



この度、2期目の広報委員長を仰せつかりました工藤保子です。山口会長から、1期目は「新しいウェブサイトでの情報の共有を期待する」との使命を頂戴し取り組んでまいりました。結果として、これまで別々に情報提供を行っていたホームページと Facebook を一体化させた、新たな公式ホームページを開設することができました。今後さらに、広報委員会でも有効に運用できるようにしていきたいと考えているところです。また、もう一つの使命である、新会員の獲得や、行政や企業、地域団体等との連携のための活動を、学会大会の実行委員会とも協力しながら進めていかなければなりません。今期は、これまでお力添えをいただいている仲野隆士先生(仙台大学)、高見彰先生(大阪国際大学)の他、新たに岡安功先生(広島経済大学)、師岡文男先生(上智大学)、柳川尚子様(健康・体力づくり事業財団)にも加わっていただき、体制を強化して取り組んでまいりたいと思います。会員の皆様におかれましても、引き続き忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いに存じます。

【新役員体制紹介】

日本生涯スポーツ学会 役員・顧問・事務局

(任期:2017年度総会終了後～2019年度総会まで)

<敬称略>

会 長	山口泰雄（神戸大学）
副会長	田畑 泉（立命大学）
理事長	萩裕美子（東海大学）
顧 問	川西正志（鹿屋体育大学）、野川春夫（順天堂大学）
編集委員会	委員長 長ヶ原 誠（神戸大学）
	副委員長 久保田晃生（東海大学）
	委 員 伊藤克広（兵庫県立大学） 伊藤央二（和歌山大学）
	久保和之（龍谷大学） 竹内 亮（大阪体育大学）
	涌井佐和子（順天堂大学）
研究企画委員会	委員長 石澤伸弘（北海道教育大学）
	委 員 工藤康宏（順天堂大学） 前田博子（鹿屋体育大学）
	松永敬子（龍谷大学） 平野貴也（名桜大学）
	藤本淳也（大阪体育大学）
広報委員会	委員長 工藤保子（大東文化大学）
	委 員 仲野隆士（仙台大学） 高見 彰（大阪国際大学）
	岡安 功（広島経済大学） 師岡文男（上智大学）
	柳川尚子（健康・体力づくり事業財団）
監 事	松岡宏高（早稲田大学） 二宮浩彰（同志社大学）
事務局	事務局長 松本耕二（広島経済大学）
	事務局員 渡辺泰弘（広島経済大学）、中嶋則夫（広島経済大学）

『 事務局 』

松本 耕二(広島経済大学)



こんにちは。2016年4月より広島経済大学にて事務局を担当させていただいています。事務局は、運営上の諸事務を担当する部局であり、本学会の目的を実現するための実質的作業を行うところでもあります。会員の皆様と役員、また内外の関係組織団体とのパイプ役を職場同僚でもある中嶋則夫先生、渡辺泰弘先生とともに担当しています。本学会に関することについては、気軽にご連絡ください。通常の本業務の合間に本会の業務を行うこととなり、ご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、二期目となる二年間も努力してまいります。どうか、引き続き、ご理解とあたたかなご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

日本生涯スポーツ学会第19回大会のご報告

2017年11月3日(祝・金)～4日(土)の2日間にわたって開催された第19回学会大会は、多くの皆さんに滋賀県の龍谷大学 瀬田キャンパスまでお越しいただき、成功裏に終えることができました。実行委員会を代表いたしまして、感謝申し上げます。

日本生涯スポーツ学会第19回大会実行委員会
委員長 久保 和之

- 期 日：2017年11月3日(祝・金)～4日(土)
- 会 場：龍谷大学 瀬田キャンパス(滋賀県大津市)
- 主 催：日本生涯スポーツ学会
- 運 営：日本生涯スポーツ学会第19回大会実行委員会
- 後 援：滋賀県、滋賀県教育委員会、滋賀県レクリエーション協会、公益財団法人滋賀県体育協会
公益財団法人笹川スポーツ財団
- 協 賛：学校法人龍谷大学、順天堂大学スポーツ健康科学部、セノー株式会社、有限会社市村出版
株式会社ナイト工芸、公益財団法人笹川スポーツ財団

- 大会名誉会長 入澤 崇 (龍谷大学 学長)
- 大会会長 山口 泰雄 (日本生涯スポーツ学会 会長)
- 大会実行委員会
委員長 久保 和之 (龍谷大学)
委 員 大西 孝之、松永 敬子、松畑 尚子 (龍谷大学)
河西 正博 (同志社大学)
田畑 泉、長積 仁 (立命館大学)
吉倉 秀和 (びわこ成蹊スポーツ大学)

- 大会テーマ 『地域と生涯スポーツ～スポーツと自然環境～』

■ 大会日程

11月3日(祝・金)	9:30	開会式
	9:45	口頭発表①
	13:30	基調講演
	14:45	シンポジウム
	16:30	ワークショップ
	17:20	ポスター発表
11月4日(土)	18:15	懇親会
	7:00	モーニングセッション
	9:00	口頭発表②
	12:30	総会
	13:00	閉会式

- 大会参加者 150名(一般:110名、学部生:40名)
- 懇親会参加者 125名(一般: 66名、院生・学部生:59名)
- 発表演題数 オーラル:21演題 ポスター:19演題

■ 基調講演

演 題 滋賀県の自然・文化とスポーツ
 演 者 嘉田 由紀子 氏 (前滋賀県知事、前びわこ成蹊スポーツ大学学長)

■ シンポジウム

テーマ 生涯スポーツと自然を考える
 演 者①教育の立場から
 中野 友博 氏 (びわこ成蹊スポーツ大学副学長/教授)
 ②地域の立場から
 鶴瀬 正樹 氏 (NPO法人瀬田漕艇倶楽部専務理事)
 ③企業の立場から
 山脇 秀錬 氏 (オーパルオブテックス株式会社代表取締役)
 司 会 久保 和之 氏 (龍谷大学准教授)

■ ワークショップ

テーマ 二代目ラジオ体操第3
 指 導 井上 辰樹 氏 (龍谷大学教授)



基調講演：嘉田由紀子 氏



基調講演全景



ポスター発表



二代目ラジオ体操第3

【学生訪問記】

日本生涯スポーツ学会第19回大会に参加して

黒田 眞穂

(東海大学 体育学部生涯スポーツ学科3年:当時)



生涯スポーツ学会大会の参加は2回目でした。昨年は1日目しか参加できませんでしたが、今年は全日程参加させていただきました。今年もスポーツ・運動のイベントについての口頭発表やポスター発表で、非常に幅広い分野の研究を聞くことができました。しかし、あまり馴染みのない研究のため、用語や内容はまだまだ分からないことも多く、どんな研究であるか100%理解することはできませんでしたが、視野を広げることができました。

また、同じ研究室の先輩方が発表、ポスター発表されました。私の中で「学会」というものがとても先進的で、先生方や長年研究されている方々が意見交換や報告の場だと思っています。しかし、大学で学んだことの集大成として書いている卒業論文を学会で発表するというチャレンジをしている先輩たちの姿は、とても堂々とし

ていて、改めて尊敬するとともに、大学での学びやこれから行う卒業論文に対する取り組みにより一層力を入れようと思いました。

他大学の同学年の学生さんも発表されていました。今の私では分析もできず発表までするのは難しいと思います。他大学の方と自分を比べることで、自分に足りない部分が見えましたし、他大学ではどんなことを研究しているかを知ることができ、大変刺激になりました。2日目の朝にはモーニングセッションを行っていました。残念ながら私はバスの時間の関係で参加することができなかったのですが、様々な方とお会いし、交流する場にスポーツがある環境が学会で実践されているのは私にとってとても嬉しいことでした。

来年の学会大会は沖縄での開催と伺いました。このような貴重な経験、時間を過ごせた生涯スポーツ学会に来年もぜひ参加させていただきたいと思います。

日本生涯スポーツ学会第 19 回大会の発表を終えて

河村 七海

(流通科学大学 人間社会学部人間健康学科
スポーツマーケティングゼミナール 3 年:当時)



今回の日本生涯スポーツ学会第 19 回大会では、私達の大学から 3 チームがポスター発表を行いました。私たちの発表テーマは、「女子プロ野球観戦における支援意識に関する研究～観戦者における性別比較～」でした。女子プロ野球観戦者に対し、属性、印象、支援意識に関する質問紙調査を行い、女子プロ野球に対する印象が観戦者の支援意識に影響を及ぼすかを性別の比較を通し明らかにする研究発表でした。

今回ポスター発表を行い褒めて頂けることもあれば、厳しいご意見ご指摘を頂くこともありました。褒めて頂いたところはこれからも伸ばしていくようにし、ご意見ご指摘頂いたところは素直に受け止め、これからの研究や発表の際に活かしていければと思いました。今回ご指摘頂いたひとつに、研究テーマである女子プロ野球についての情報不足がありました。発表を終えてから質疑応答の際に、女子プロ野球の質問についてしっかりと答えることができませんでした。ポスターに書く情報のみを調べるのではなく、研究テーマについて深く知る必要があると改めて感じました。

また、先生方の発表や他の大学の発表をお聞きし、特に印象に残った発表が和歌山大学の伊藤央二先生の発表でした。自分の考えを他者に納得させるような伝え方であり、説得力のあるプレゼンテーションでした。伊藤央二先生の発表を通じ、説得力のある発表、そして表現豊かなプレゼンテーションが今後できればと強く思いました。

学会発表後には、懇親会があり先生方や他大学の学生とも色々なお話をすることができました。このような沢山の方との交流する場もあり、私達にとって滅多にない機会であったことから、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回の日本生涯スポーツ学会第 19 回大会での経験は、これからの発表や社会に出て行く私たちにとても良い勉強になりました。本当に充実した 2 日間になりました。ありがとうございました。

日本生涯スポーツ学会第20回大会のご案内

<大会概要>

期日：平成30年11月23(金)～24日(土)

会場：名桜大学 SAKURAUM、多目的ホール

主催：日本生涯スポーツ学会

運営：日本生涯スポーツ学会第20回大会実行委員会

後援：沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー、名護市、琉球大学、沖縄国際大学
 沖縄キリスト教学院大学、沖縄大学、名桜大学(順不同、すべて予定)

<大会テーマ>

生涯スポーツ振興とスポーツツーリズムの未来

<大会日程>

11月23日(金・祝)		11月24日(土)	
8:00	受付	9:00	研究発表(口頭)②
9:00	開会式	11:00	ワークショップ
9:30	研究発表(口頭)①	12:00	総会
11:30	昼食	13:00	閉会式
13:00	基調講演	15:00	エクスカージョン
14:45	シンポジウム		
16:15	研究発表(ポスター)		
18:30	懇親会		

※予定は変更される場合があります。

<基調講演>

- テーマ スポーツツーリズムの研究動向と研究課題
- 演者 (調整中)

<シンポジウム>

生涯スポーツの振興に欠かせない要素となっているスポーツツーリズムは多様な広がりを見せている。今後のさらなる生涯スポーツの推進を考えるうえで、ツーリズムをどのように活用し、どのような活動が必要で、地域社会とどのような関係を築くべきなのかを検討することで、今後の生涯スポーツとツーリズムの方向性を考える。

- シンポジスト 金村禎和 氏(沖縄県文化観光スポーツ部)
 荒川雅志 氏(琉球大学)
 森 兵次 氏(ツールド沖縄実行委員長)
 山口泰雄 氏(神戸大学)
- コーディネーター 平野貴也 氏(名桜大学)

<大会企画>

●ワークショップ 「スポーツリズムトレーニング」

学会参加者および名護市民を対象として、スポーツリズムトレーニングの講習会

●エクスカージョン (調整中)

カヌー体験、スタンドアップパドルボード体験、帆かけサバニ体験など

<学会大会までのスケジュール>

事 項	締め切り
大会参加申込	平成 30 年 9 月 1 日(土)17 時
研究発表申込	平成 30 年 9 月 1 日(土)17 時
非会員(一般)大会参加申込	平成 30 年 9 月 14 日(金)17 時
宿泊申込	平成 30 年 9 月 14 日(金)17 時
大会参加費・懇親会費(事前申込)	平成 30 年 9 月 20 日(木)

※発表申込、参加申込方法など詳しくは学会HPをご覧ください

<若手研究発表賞について>

会則第 3 条に定める目的を促進するために「若手研究発表賞」を授与します。若手個人会員の皆様、また研究室所属の大学院生にお勧めいただき、ふるってエントリーいただきますようお願いいたします。

<ポスター発表賞について>(新設)

今年度より、学部学生および大学院生によるポスター発表を促進するためにポスター発表賞が新設されます。学部学生および大学院生にお勧めいただき、こちらにもふるってエントリーください。

<懇親会> 会場 大家(うふや一) 沖縄県名護市中山 90 <http://ufuya.com>

<宿泊について>

11 月の大会期間中は連休中でもあり、名護市周辺の宿がとりづらい状況にあります。大会実行委員会で 11 月 22・23 日の名護市内のホテルを 100 室ほど押さえてあります。宿泊希望者は、宿泊申込書に必要事項を記入の上、お申込みください。ご希望に添えない場合もごさいます。

**<大会に関するお問い合わせ>**

日本生涯スポーツ学会第 20 回大会実行委員会

(名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科内)

委員長 平野貴也(名桜大学)

TEL:0980-51-1048(東恩納研究室) Fax:0980-54-2951

E-mail: meio.lifelong.sport2018@gmail.com <https://www.facebook.com/shospo20/>

【関連学会等情報】

「2020年国際会議(ICSEMIS)の国内開催に伴う運営委員会への参画」

本会が加盟する日本スポーツ体育健康科学学術連合より、2020年に開催予定の国際会議のICSEMIS(International Convention on Science、Education and Medicine in Sports)への共同運営に関する参画依頼がありました。本会としてICSEMIS運営委員会に工藤保子(大東文化大学)氏を派遣することになっています。今後、進捗等については、随時、学会ホームページ等で報告・共有させていただきます。

現時点では、以下の開催時期と開催候補地等が挙がっています。今後、大会テーマ等についても検討がすすめられます。

◆開催時期 : 2020年8月中旬

◆開催候補地: 愛知県(愛知国際展示場)、大分県、横浜市(国際展示場)で検討中

<参考:過去の大会のテーマは以下のとおり>

2008年広州(中国) “Sport Science and Harmonious Society in the 21st Century”

2012年グラスゴー(イギリス) “Sport...Inspiring a Learning Legacy”

2016年サントス(ブラジル) “Saying Yes to Diversity in Sport”

【新入会員紹介】

2017/4-2018/5月理事会承認分

田村 匡(一般,大阪成蹊大学)	藤口光紀(一般,広島経済大学)	林 恒弘(一般,大阪成蹊大学)
三島和康(一般,福山 YMCA 国際ビジネス専門学校)		鴨谷 真(院生,神戸大学)
松崎 淳(院生,神戸大学)	張 杏雨(院生,神戸大学)	馬場宏輝(一般,帝京平成大学)
彦次 佳(一般,和歌山大学)	朴 明姫(一般,韓国中原中学校)	山北隆太郎(院生,神戸大学)
長野慎一(院生,和歌山大学)	澤田 亨(一般医薬基盤・健康・栄養研究所)	
八木悠太(学生,和歌山大学)	平野敬太(院生,鹿屋体育大学)	叶 敬偉(院生,仙台大学)
友利太河(院生,鹿屋体育大学)	宇野真理子(学生,東海大学)	二宮茉優(学生,東海大学)
萩原悟一(一般,鹿屋体育大学)	当山倫子(院生,神戸大学)	吉村実佳(学生,和歌山大学)
永野杏奈(学生,和歌山大学)	藤森美月(学生,和歌山大学)	坂本直斗(学生,和歌山大学)
水野はるな(院生,順天堂大学)	中村捺子(院生,順天堂大学)	河村七海(学生,流通科学大学)
三輪 唯(学生,流通科学大学)	片岡立樹(学生,流通科学大学)	黒田真穂(学生,東海大学)
橘 こゆき(学生,東海大学)	繁 侑里(学生,和歌山大学)	西田光希(院生,和歌山大学)
三ノ宮聖弘(学生,順天堂大学)	稲川大輝(学生,順天堂大学)	竹田昌平(一般,鈴鹿大学)
山下耕平(学生,神戸大学)	寺井 弾(一般,和歌山大学)	
朴 永晃(一般,大阪経済法科大学)	渡邊浩美(一般,スペシャルオリンピックス日本)	
与那覇秀勲(一般,流通科学大学)	菅原一昭(一般,仙台医療福祉専門学校)	
大崎哲也(一般,北海道新聞社)	舞 寿之(一般,桃山学院教育大学)	

(入会順、敬称略)

【編集 日本生涯スポーツ学会 広報委員会】

事務局 〒731-0192 広島市安佐南区祇園 5-37-1 広島経済大学内 松本研究室気付
 TEL&FAX : 082-871-1641 Email : jp.lifelong.sport@gmail.com
 HP : <https://jsls.jp>